

会議録

会議名 (審議会等名)	相模原市南区区民会議		
事務局 (担当課)	南区役所区政策課 電話042-749-2134(直通)		
開催日時	令和5年5月24日(水) 14時00分~16時02分		
開催場所	南区合同庁舎3階 講堂		
出席者	委員	15人(別紙のとおり)	
	その他		
	事務局	15人(南区長、副区長、他13人)	
公開の可否	可	不可	一部不可
	傍聴者数	0人	
公開不可・一部不可の場合は、その理由	<p>1 開会</p> <p>2 区長挨拶</p> <p>3 報告 (1) 令和4年度南区役所事業報告 (2) 令和5年度南区役所事業について (3) 第3回南区区民会議の結果について</p> <p>4 議題 「情報収集方法」について</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p>		

審議経過

主な内容は、次のとおり。（　は委員、　は事務局の発言）

1 開会

2 区長挨拶

加藤南区長から挨拶を行った。

3 報告

(1) 令和4年度南区役所事業報告

(2) 令和5年度南区役所事業について

(3) 第3回南区区民会議の結果について

資料に基づき事務局から説明を行った。

(質疑なし)

4 議題「情報収集方法」について

資料に基づき事務局から説明を行った。

アンケート結果から、皆様がどう感じたかを順番にお聞きしたいと思う。（井坂会長）

何か情報を得る時は、紙媒体よりネットの情報が多い。年代によって、ネットの使い方が若干違うかもしれないが、上のほうに上がってくるニュースだったら開く。（隈本委員）

伝えたい地域情報というのは、ネットで調べるよりも、情報紙等で、皆さんの家庭に届けたほうが良いと思う。もっといい媒体を探しながら、皆さんに本当に広く伝えていけるようになればいいと思った。（田村（久）委員）

情報を調べる時間がない人には、例えば相模大野駅だと大きい電子掲示板があるので、地域のいろいろな情報も発信していければ、ビジネスマンや学生とかいろんな人に見てもらえるかなと個人的に思いました。（横山委員）

若い世代のまちづくりへの参画というところで、気になっているのが地元の3大学。地元の3大学に来ている学生は地元の学生ではないので、そこをよく考えないと、何か一生懸命やってくれると思っていてもいつの間にか卒業していなくなってしまうということがあるので、地元の大学生をどう捕まえるかが課題。（金森委員）

昨日、授業で私の地元紹介をするという授業をやって、相模女子大ですら相模原市出身の割合というのは10%いるかないかというのが現状です。むしろここからどこかに通って

いる学生をしっかり捕まえておいたほうがいいというのは、確かにご意見としてはありがたいなと思いました。（井坂会長）

地元の大学生を大事にするということは私も大事だと思います。ただ、その期間いる大学生がすごく魅力を感じて取り組んでいるということも一つで、例えば留学生とかもそういうプロジェクトをきっかけに、最後卒業制作を相模原の場所を見つけてきてそこを課題にするというようなこともあるので、もう少し外に広がっていけばいいのかなと思いました。

逆に、大学卒業後に、卒業生が地域をおこしたいというので、違う市町村で、そこに大学生をまた引き込んでくるという活動をしていたりするので、地元にいる大学で一番それができればいいなというのと、相模原だけじゃなくて、ここからどこかに行っている、ほかの都内に行っている大学生とかを地元巻き込んでくるというような活動がうまく循環できればすごくいい流れになるのかなと思いました。（吉田委員）

先ほど回覧板の話がありましたが、回覧板は自治会員しか回らないということと、回覧板を回しても見ない人もいるという状況もあります。そして、一番見てくれるのはやはり高齢者の方々、自分が取り残されないように、地域と関わりたいということで見てくれます。若い方は、家族から話を聞いて見てくれる方もいるが、やはり媒体として回覧よりSNSとかLINE等で情報を得たいという方が多い。ただ、どちらか1本にするということはなかなか、若い方と高齢者では全然違うので、どのようにバランスを取っていけばいいのかという課題に悩まされています。（篠塚委員）

地域の人たちに情報を流すというときには、現時点では地域情報誌が一番いい形になると思います。地域情報誌を回覧で回すという形になりますけれども、ただ、自治会の会員が今5割というふうな状況の中では、自治会の会員にしか回らないということで、それ以外の人たちにどうやって届けるかという部分は大きな課題になります。その部分をインターネット関連、それ以外にもいろんな手があると思いますけれども、苦労しているというふうな状況です。

例えばイベントの募集をしたときにすごく殺到するというケースもあります。やはりそれだけ関心があるような内容には多くの方が目を通して見ている。発信する内容とかを工夫しながらやっていくということが大切になるのかなと思っています。現状では、まだインターネットだけにするというふうな状況は取れませんけれども、徐々に回覧板にしても電子回覧とか、少しずつ広げていけばいいのかなと思っています。なかなか難しいので、今の時点では両方併用しながらやっていくという形になるのかなと思います。（中島（勝）委員）

殺到するイベントはどんなのがあったのか、参考までに伺います。（井坂会長）

どこかに文学散歩とか歴史散歩みたいな形でちょっと出かけているんなところを見て回るイベントには、結構殺到したりします。（中島（勝）委員）

それは年齢層というのはどんな感じですか。（井坂会長）

文学散歩だと比較的高く、中高年以上。（中島（勝）委員）

ありがとうございます。では、引き続き大木さんお願いいたします。（井坂会長）

私は自治会活動をしている立場なので、自治会員を対象にするのか、あるいは不特定多数の住民を対象にするのかということで、違ってきます。絶対皆さんに見てもらおうというふうに考えているものに関しては、各戸配布、世帯数分を印刷して各戸配布しています。回覧よりも手元に残るのでかなり関心を持って見てくれるかなと思います。インターネット関係については、自治会の中で、30世帯に聞いてみたら、スマホを扱えないという人が圧倒的に多くて諦めたという話も報告されています。今日の会議資料を拝見していても、主な収集元ということで、やはり広報とか地域情報誌とか、紙媒体のものがやっぱり圧倒的に多いのかなというふうに見ました。そういう点でまだまだ紙媒体の必要性があるのかなというのが実感です。（大木委員）

広報ですけど、これも非常に先ほどから出ていますように、紙媒体で各戸配布されていれば多分読む方のほうが多いかと思います。防災ということが大野中でまちづくり会議の中で出ておりまして、こういう意見がありました。私の地区には小学校、中学校、高校、大学がないです。要するに避難訓練をしようとしたときに、昼間力を添えてくれるというか、助けてくれる人いない。小さい子供を抱えているご夫婦か、高齢者か、お勤をしておりますので、ほとんど地元には若い人がいない。そういった訓練のときには縦流れの要するに組織の中で、学校関係の職員も含めてそういう学生さんは訓練に参加されていない。何とかこれをうまく参加するような方法が取れないでしょうか意見が出ました。（田村（小）委員）

アンケートのほうを見ていて、私が、もちろんアプリがあれば情報が届くのにとか、もうちょっと告知の方法を考えてほしいとかという呼びかけがありました。一番気になったのは、結局情報が来るのを待っているというイメージです。だから自分から取りに行くわけではないし、あるいはもちろん取りに行ったけれどもどこを見ていいかわからないというのもあると思うんですが、情報でもイベントでも実際そこに存在しているんだけど、それが周知されないのか、そもそも目に入らないのかとか、先ほど紙媒体がそこにあるということは、例えば全く興味のないものでもたまたま目に入って暇だったら読んで、読んだら意外と面白かったというんで行くという、ただ、インターネットの場合って、先ほど隈本さんからもありましたけれども、基本的には自分の関心のある検索ワードばかりやっていますので、暇

潰して見ている自分の興味のあるものしか出てこないですね。情報を見せる苦勞と同時に、見ない人に見るようにさせるといふ、それが情報を届けるということですが、でもそれはそもそも情報に魅力があるのかどうかということも含めて両方の面があると思うんですが、ちょっと何かそういうことも含めまして、情報が届いていない、あるいは届かないということについて、まだ何かもうちょっと深掘りできるところがあるかなと思うんですが、例えば佐田さん、何かその辺についてご意見があれば。（井坂会長）

このアンケートを見ていて感じたことは、この前雨が降っているときに若葉まつりに行ったが、すごく若い人たちが多かった。話を聞くと、周りのお友達から聞いたとか、あるいは広報誌を見ている。子供たちも、多分ポスターとかを見て知ったんだろうなと思います。

もう一つは、インターネットのほうですけども、自分が興味のあるものしか見ないというのは分かります。それで自分が興味のあるものについては、これを調べてみようというふうになると思うんですけども、その地域のところで取り組んでいるもの、それを探し出すのにすごく時間がかかります。（佐田委員）

ありがとうございました。そのときに実際の感想としては、いろんなやっぱり紙媒体というか情報で人があちこちから集まってきたということでしょうか。（井坂会長）

聞いてみると、そのようです。（佐田委員）

それは中学生、高校生でも含めてみんな。（井坂会長）

そうですね。（佐田委員）

私たちの団体は未就園児、幼稚園に行く前のゼロ、1、2歳のお子様とお母様やお父様が遊びに来るような広場ですけども、利用者さんたちの情報収集手段でよくこの頃聞くのが、相模原市が配信している「さがプリコ」という電子母子手帳のアプリ。もうすぐこの予防接種を受けたほうがいいですよとかいうのをお知らせしてくれるとともに、地域のセミナーとか、子育てに関する保護者の人たちが必要であるようなセミナーとかもお知らせが来て、自分に必要な情報とともに、私たちが知らせたいことがおまけのように届けられると、やっぱり目を通して、それで行ってみようかなと思うことがあるようなので、すごくいい情報の発信の仕方かなと感じています。自治体とか区のいろいろな組織ともっとリンクしていけばもっといいのかなと思うので、ぜひこの若い子育て世代にも情報発信できるようないい方法があれば私たちも協力したいなといつも思っています。（渡辺（美）委員）

若い世代に必要な情報と一緒にいっしょにお届けするというのは非常にいいアイデアと思って伺っていました。（井坂会長）

情報収集方法という年代別のところにもう一度戻りますけれども、情報を収集して次のア

クション、今までこの区民会議で議論してきた地域の参加につながるような、特に若い人たちにどうやったらそれが届いて、なおかつその人の行動につながるか。QRコードが紙媒体についている場面も多くなりました。駅にサイネージ広告を出して、QRコードで読んでスマホからアクセスするような、情報収集方法から漏れている人たちに最初にリーチして、その人たちの行動につなげるみたいなのをもう少し具体的にいろいろ議論していったらどうかと感じました。（石森委員）

紙媒体というのは依然として、特に50代以上の年齢層の方にとっては大きい割合を占めているのでまだしばらくはそういう時代が続くのかなと。

東林間の「ふれあいだより」というのを年に数回出しているのですが、私の地区は20世帯あるんですけど、約3分の1強の方は回しても戻ってくる。だが回覧板で回っていて、関心があって、席が足りないくらい集まったのは薬の飲み方、それから爪の切り方を教えてくれる講習。だから見ていないわけではないので、やっぱり紙ベースも大切にしながら、いわゆるそういう現代的なものも並行して進めていかないといけないという印象は持っています。（渡辺（幸）委員）

ネットは関心があるものしか見ないので紙の媒体をなくすことはできない。（増本委員）
ありがとうございます。

今ちょうど一区切り1周したところでのことで言うと、世代を問わず、年代を問わず、情報が届いていない人が一定数いるというのは、間違いなくて、しかも届いていないということが、一つは、例えば今の市の広報の問題で言うと、実際新聞取るのをやめちゃったらもう来なくなっちゃう。それでも、例えばそれこそ自治会とかまちの中で、隣近所顔見知りであれば、まさに口コミで広がる部分もあると思いますけれども、若い世代に関して言うと、近所付き合いもあまりないこともあって、情報から逆に漏れていく。もしかしたら本当に必要な情報が、さっきのアプリなんかは逆にすごく面白いなと思って聞いていたけれども、それ以外にも、大事な情報が本当は若い世代に届かなきゃいけないというのが漏れていくということで、ただしそれは漏れているということは、本当はちゃんと一生懸命発信している人はいるんだけど、それをただ見ていないというケースもあるということも含めて言うと、もう1回ちょっと振出しというか、ぜひ隈本さんと横山さんにお伺いしたい。自分たちの目に入ってこない情報に新しくリーチする方法って何かありますか。（井坂会長）

例えば、SNSの話で言えば、有名人が南区役所のインスタを友達追加してくれれば、その芸能人のファンの方は、そのアーティストが友達として追加しているものとして見るわけですね。ましてレコメンド機能で言えば、そのアーティストの情報を見ている人のほうに

までレコメンドが送られることになる。そういった意味で、多くの人に興味を持っているものに結びつけてあげるような広報の仕方というのができればいいんじゃないのかなというのが1アイデアです。(隈本委員)

特に地元への興味とか、住んでいる地域への興味がないという人にとっても、自身の体験とか、生活に基づくような、身近なところで発信をしていくところがきっかけとなって、自分の地域ってこういうのが有名だとか、こういうのがPRされているということから、地元のイベントに参加するという人もいるんじゃないかなと個人的には思いました。(横山委員)

さがプリコでもそうですけど、大事な情報に紐付けしていくということと言うと、有名人を巻き込んでいくというのは、本当に基本的なところで、大いに活用していける内容だと思う。ちなみに南区で今まで芸能人呼んで何かやったこととあってありますか。(井坂会長)

相模原では富永愛さんとコラボしていますけど、橋本出身なので。区役所としてはないです。

子育てのイベントだと子育てのことしか配られていなくて、子育てとは関係ないけど南区に住んでいる人にいい情報だよというのにもアプローチしていただけたらいいのかなと思います。(渡辺(美))

自治会に入っていない方たちが情報を得ている一つとして、掲示板。立ち止まって見ている若い方、結構お見かけする。自治会も市から依頼されている掲示物を貼るけれども、なかなか掲示板に貼るもので南区版があまり来ないというのはあります。(大木委員)

掲示板はやっぱり立ち止まって見ている方は見かけます。(井坂会長)

ありがとうございました。次回以降、深掘りしながら、この先の無作為抽出型の会につなげていけるようにやっていきたいなというふうに思います。(井坂会長)

5 その他

渡辺(幸)委員から、相模原市福祉オンブズマンネットワークについて情報提供があった。事務局から、無作為抽出型区民討議会および次回の日程について、8月以降の開催予定であると説明があった。まちのコイン「すもー」について情報提供があった。

地域振興課から南区ガイドマップの電子版にアプローチするQRが書かれた紙を配布。

6 閉会

相模原市南区区民会議委員名簿

(順不同・敬称略)

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	田村 小次郎	大野中地区まちづくり会議		出席
2	大木 恵	大野南地区まちづくり会議		出席
3	中島 勝平	麻溝地区まちづくり会議		出席
4	穂苅 健二	新磯地区まちづくり会議		出席
5	篠塚 実希子	相模台地区まちづくり会議副		出席
6	松嶋 保和	相武台地区まちづくり会議		欠席
7	田村 久司	東林地区まちづくり会議		出席
8	鈴木 貴市	相模原南交通安全協会会長		欠席
9	佐田 昌史	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
10	草薙 喜義	相模原市社会福祉法人経営者協議会		出席
11	渋谷 典彦	相模原市地区社会福祉協議会南区連絡会		欠席
12	渡辺 美帆	子育て親育ち応援団 With.cfc 副代表		出席
13	東 正充	相模原商工会議所		出席
14	九嶋 俊彦	相模原青年会議所		欠席
15	井部 弥生	相模原市民文化財団		欠席
16	横山 日南	さがまち学生 Club		出席
17	井坂 聡	相模女子大学人間社会学部 教授	会長	出席
18	吉田 貴子	女子美術大学芸術学部 教授		出席
19	田中 美加	北里大学看護学部 教授		欠席
20	石森 寿幸	公募委員		出席
21	渡辺 幸雄	公募委員		出席
22	増本 敏康	公募委員		出席
23	金森 巖	相模原・町田大学地域コンソーシアム業務部部長補佐 市民・大学交流センター		出席
24	隈本 光	南区若者参加プロジェクト実行委員会		出席
25	長瀬 徹	ジェイコム湘南・神奈川・相模原・大和局		欠席